

ふじミュ－自然系文化祭
第7回 自然史しずおか祭 2023
横山謙二

ふじミュ－の秋イベントとして、毎年行っています「自然史しずおか祭」が、10月28日（土）から11月5日（日）にかけて開催されました。今年も、地質・古生物・植物、昆虫の研究など、29テーマの発表がありました。自然史しずおか祭は、当初はふじミュ－研究員などの関係者ばかりでしたが、近年では中高生や大学生の参加も増えてきました。今年も、静岡県立田方農業高等学校、静岡県立磐田南高等学校、静岡大学の学生の8テーマの参加があり、幅広い年齢層と様々な発想で行った発表がありました。

11月3日午後のコアタイムでは、発表者に集ってもらい、発表内容の補足や質問の対応をしてもらいました。やはり、ただの文字・図面だけの説明より、発表者による口頭での説明は理解も深まり、疑問質問に、その場で対応してもらえるところも、コアタイムの魅力の一つではないでしょうか。また発表者どおしの、交流や情報交換なども楽しみの一つです。

コアタイムの最後には、優秀な発表にたいして表彰式を行いました。

今年の優秀賞は、静岡県立磐田南高等学校の「遠州灘の軽石を探る－福徳岡ノ場の軽石との比較－」、大石瑞貴さん（静岡大大学院生）ほかの「静岡県磐田市鶴ヶ池の水草相」、鈴木英文さん（NPO自然博ネット）の「タカサゴユリは食用になるか」の3テーマが選ばれました。どの発表も、甲乙つけがたいものでしたが、鈴木さんが発表した「タカサゴユリは食用になるか」は、ユニークな発想と、だれにでもわかりやすいというところが、今回の受賞につながったようです。

自然史しずおか祭は、今後も毎年開催していく予定です。今後は、これまでふじミュ－関係者だけとしてきましたが、参加者枠を拡張して県内の自然に関する研究を行っている人たちが集える場に変えていきたいと思っています。ぜひ、みなさんもこの博物館を活用して、調査研究を行い、自然史しずおか祭で発表してみてもいいのではないでしょうか。



自然史しずおか祭 2023



コアタイムの様子



優秀賞の授与式